



ThreeBond



2022

JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.6

RACE REPORT



FUJI SPEEDWAY



# 希望の先に

2022 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 5 大会（第 6 戦）が、7 月 16 日（土）～17 日（日）にかけて静岡県富士スピードウェイで開催された。

大幅なセッティング変更に踏み切った前回のレースでスーパーフォーミュラ参戦以来初の選手権ポイントを獲得したチームは、前回のセッティングをベースに持ち込みセッティングをまとめ、富士スピードウェイへ持ち込んだ。

今回は前回のレースで試すことができなかった、主にフロント周辺の改善に繋がる新しいセッティングを盛り込んだ。

## 公式予選

週末の富士スピードウェイは朝から悪天候に見舞われ、午後 3 時 10 分からの公式予選は、コンディション不良を考慮して通常のノックアウト形式から 30 分間の単純計時形式で行われることとなった。

雨は小降りとなっていたが、コースは依然としてウェットコンディションで、出走全車がレインタイヤでコースインした。

セッション中に天候悪化が予想されており、各車できるだけ早い段階でタイムを記録しようと走行を開始した。ピット出口から最も遠い位置にあるガレージからピットロードを走り抜けないとコースイン出来ない福住仁嶺選手(以下、福住選手)は、タイムアタックのためにコースインした時にはすでにコースを 1 周してタイムアタックに入ろうとしている他車に追いつかれて、コースを譲らなければならない状況となった。思い通りのタイミングがつかめないまま、まず 1 分 35 秒 951 を記録して 9 番手につけた。

さらにタイム短縮を狙ってタイムアタックに入ったところ、コンディション悪化に足を取られた他の車両がアクシデントを起こし、セッションは赤旗で中断され、タイムを更新することはできなかった。

更に、その後雨が強まりコンディションが再び悪化したため、セッションは 1 分 30 秒を残して打ちきりとなった。この時点で福住選手の順位は 10 番手だったが、上位 2 台がペナルティでタイム抹消となったため繰り上がり、スターティンググリッドは 8 番手となった。

### 予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#19 関口 雄飛 1'35.951
2	#38 坪井 翔 1'36.858
3	#1 野尻 智紀 1'37.240
8	#12 福住 仁嶺 1'37.885



## 決勝レース

日曜日は天候が回復傾向となり、午後 2 時 30 分、ドライコンディションで決勝レースのスタートが切られた。

8 番手グリッドの福住選手はクラッチミートが鈍く、加速が遅れた際に後方から数台のオーバーテイクを許し、集団に囲まれた状態で第 1 コーナーへ進入することになった。

ところが福住選手をオーバーテイクした車両がコーナーの中で接触事故を起こし、巻き込まれてわずかにフロントウイングを破損してしまっただ。走行を続けることは可能だったので、福住選手はチームと無線を通して、このままタイヤ交換義務消化のピットインが可能になる 10 周目まで走行を続け、タイヤ交換とノーズ交換を同時に行う可能性を検討し始めた。しかし、3 周目にセーフティカーが導入されたためノーズ交換のためだけのピットインとなってしまっただ。

ノーズごとフロントウイングを交換した福住選手は、この結果、最後尾の 17 番手まで順位を落とし、9 周目にレースが再開されると追い上げにかかった。

11 周目、13 番手まで順位を上げたところでタイヤ交換義務消化のため再びピットイン。タイヤを交換して 16 番手でレースに復帰した。

その後、福住選手はオーバーテイクシステム (OT) を連発して追い上げ、26 周目には 12 番手にまで浮上したが、26 周目に再びセーフティカーが入ったため、敢えてピットインし 2 回目のタイヤ交換を行う決断を下した。

2 回目のピット作業は義務ではないが、タイヤ消耗も進んでおりこのままの状態でも走り続けてもポイントを獲得出来る 10 番手まで順位を上げることは難しそうだったので、ピットインでいくつかポジションを下げて新品タイヤを装着して追い上げたほうが、レースを有利に運べるだろうとの判断だった。

この予定外のピットインで福住選手の順位は最下位の 15 番手にまで順位を落としたが、前を走る選手たちは消耗の進んだタイヤでの走行に苦しんでおり、新品タイヤを装着した福住選手は猛然と追い上げ、32 周目には 13 番手、34 周目には 12 番手、35 周目には 11 番手と順位を上げていった。しかしレース前半の混戦で OT を使い果たしていたこともあって、これ以上のオーバーテイクは困難で、40 周を走りきり 11 位でレースを終え、惜しくも 2 レース連続の選手権ポイント獲得はできなかった。



## ドライバー 福住 仁嶺 コメント

今までレースをやってきて一番良くないスタートでした。クラッチのバイトポイントに問題があってクラッチミートがうまくできず、進み出すこともできませんでした。結果的にスタートで順位を落とす形になり、前方の接触に巻き込まれて、何とか避けようとしたのですが、少し接触してしまい、フロントウイングが傾いてしまいました。それでも、ある程度のペースでは走ってはいましたが、セーフティカーが入ったことでピットに入ってウイングだけを交換しました。すると「ホントに同じクルマなのか？」と思うほどクルマのバランスが変わってしまいました。2回目のタイヤ交換は、それまでの混戦でタイヤを消耗させていましたし、このまま行っても順位を落とすだけなので自ら決断しました。ポイントにはあと1歩届きませんでしたが、今シーズン、最もレースらしいレースができて、僕たちがここまでやってきたことが着実にパフォーマンスアップに繋がっていると感じました。ただ、まだまだやらなければならないことがあると思いますので、次戦に向けてチームとしっかり考えます。



## 監督 道上 龍 コメント

週末はウェットコンディションから走り始めましたが、第2戦の鈴鹿で雨だった時から比べると、クルマの状態はレベルアップしたと思います。ドライコンディションの状態は、決して満足という状態ではありませんでしたが、4月の富士の時に比べるとストレートスピードも上がって安定感も高まり、クルマとしては良い方向に向いていると思いました。でも肝心のレースではスタートで出遅れて、ウイング交換を含めて3回もピットに入ることになりました。順位を落としても2、3位、新しいタイヤで残り10周、プッシュすればポイントに届くかもしれないという計算でした。実際、最初の5周くらいは勢いがあったのですが、OTが残っていなかったため、あと1つでポイントを獲得るところまでは行きながら、結局11位で終わってしまいました。ただクルマの状態が良い方向へ向いているという手応えは確実にあります。次のもてぎでは予選でトップ5位に並んでその流れでレースも行きたいと期待しています。現状は表彰台を狙える位置に来たと感じていますので次戦こそは良い結果を出したいです。



## チーフエンジニア 伊与木 仁 コメント

前回のSUGOでクルマのセッティングを大幅に変え、それをベースに臨みました。予選では、正直ウェットコンディションに自信はなかったのですが、ドライバーが頑張ってくれました。今回は、持ち込みのセッティングに少し工夫を加えていて、明らかに良い感触でした。ところが決勝1周目のアクシデントによるノーズ交換でバランスが崩れてしまいました。スタートではクラッチのバイトポイントがうまく決まらないという問題を抱えています。それがなぜなのかはわかっていません。昨年、タチアナ選手が乗っていたときからの課題です。スタート練習で調整しても、実際のスタートではフィードバックされないという現象が起きます。他のチームでも大なり小なり起きている問題だということなのですが、今後の大きな課題です。



## レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	15	笹原右京	TEAM MUGEN	1:10'52.708
2	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	1:10'54.806
3	1	野尻智紀	TEAM MUGEN	1:11'00.257
4	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:11'01.562
5	5	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:11'06.162
6	53	佐藤蓮	TEAM GOH	1:11'06.824
7	3	山下健太	KONDO RACING	1:11'08.368
8	18	国本雄資	KCMG	1:11'11.146
9	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	1:11'11.966
10	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	1:11'13.977
<b>11</b>	<b>12</b>	<b>福住仁嶺</b>	<b>ThreeBond DragoCORSE</b>	<b>1:11'15.058</b>
12	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	1:11'19.805
13	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE	1:11'21.104
14	7	小林可夢偉	KCMG	1:11'22.748
15	6	大津弘樹	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:11'23.404
DNF	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	—
DNF	36	ジュリアーノ・アレジ	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	—
DNF	4	サッシャ・フェネストラズ	KONDO RACING	—
DNF	55	三宅淳詞	TEAM GOH	—
DNF	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	—
DNF	50	松下信治	B-Max Racing Team	—



## Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	富士	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	野尻智紀	93	15	3+20	3+15	3+8	3+11	1+11				
2	平川亮	64	1+20	15	4	20	4					
3	サッシャ・フェネストラズ	57	11		1+8	15	2+20					
4	宮田莉朋	40	6	2+11		2+6	5	8				
5	牧野任祐	36	5		11	1+5	8	6				
6	笹原右京	30	3(QF)	1+1		4	1	20				
7	松下信治	21			20	1						
8	坪井翔	20	3					2+15				
9	大湯 都史樹	20	4				15	1				
10	三宅淳詞	18	1	6		11						
⋮												
18	福住仁嶺	3	-	-	-	-	3	-				

\*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

## Team Ranking

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	鈴鹿	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	TEAM MUGEN	106	15	21	15	12	12	31				
2	carenex TEAM IMPUL	76	28	20	4	20	4					
3	KONDO RACING	66	11	8	8	15	20	4				
4	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	50	5	4	14	7	14	6				
5	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	39	6	14		6	5	8				
6	TEAM GOH	26	3	6	1	11		5				
7	TCS NAKAJIMA RACING	24	4		2		15	3				
8	P.MU/CERUMO・INGING	21	3			3		15				
9	B-Max Racing Team	21			20	1						
10	KCMG	18		2	11		2	3				
11	ThreeBond Drago CORSE	3	-	-	-	-	3	-				

